

## 1. 略歴

1992年3月	延世大学校社会科学大学社会福祉学科入学（韓国ソウル特別市）
1999年8月	延世大学校社会科学大学社会福祉学科卒業
2000年4月	東京大学大学院人文社会系研究科修士課程（社会学専門分野）入学
2002年3月	東京大学大学院人文社会系研究科修士課程（社会学専門分野）修了
2002年4月	東京大学大学院人文社会系研究科博士課程（社会学専門分野）進学
2003年5月	日本福祉大学 21世紀COEプログラム奨励研究員（～2005年3月）
2004年4月	日本学術振興会特別研究員（DC2）（～2005年3月）
2005年3月	東京大学大学院人文社会系研究科博士課程（社会学専門分野）単位取得満期退学
2005年4月	日本学術振興会特別研究員（PD）（～2006年3月）
2006年4月	東京大学社会科学研究所客員研究員（～2007年3月）
2007年3月	博士（社会学）学位取得
2007年4月	東京大学社会科学研究所 助教
2007年12月	同志社大学社会福祉教育・研究支援センター委託研究員（現在に至る）
2008年10月	北京大学社会学系客員研究員（～2009年1月）
2010年4月	東京経済大学経済学部 専任講師
2012年4月	東京経済大学経済学部 准教授
2016年4月	明治学院大学社会学部 准教授
2018年4月	東京大学大学院人文社会系研究科 准教授

## 2. 主な研究活動

### a 専門分野

福祉社会学, アジア社会論

### b 研究課題

社会学を専門とし、失業・貧困問題や少子高齢化問題などの社会問題、そしてそれに対応するための雇用・社会保障政策および家族政策などの社会政策＝福祉国家政策について研究している。日本や韓国および中国を中心としたアジア諸国・地域を主な対象とし、歴史比較分析を通じて今日の状況を明らかにし、国際比較分析を通じて各国の特徴とその位置づけについて分析を行っている。近年の研究課題は大きく分けて次の2つである。(1) 理論研究として、福祉国家とフォーディズムの歴史的關係性に着目して、従来の福祉国家研究を批判的に検討し、福祉国家を捉える新しい視点を構築すること、(2) 歴史・現状分析として、理論研究を通してえられた新しい視点にもとづいて、韓国およびアジア社会の歴史と現状を分析すること、である。

### c 概要と自己評価

理論研究の課題(1)は、10年ほど前から取り組んできた(金成垣編、『現代の比較福祉国家論——東アジア発の新しい理論構築に向けて』、ミネルヴァ書房、2010)。最近では、「福祉国家とフォーディズム」(『生活経済政策』, No.264, 2019)と「後発福祉国家論の再検討——これまでのアジア研究と今後の課題」(上村泰裕・菊池英明・金成垣・米澤旦編、『福祉社会学のフロンティア』, ミネルヴァ書房, 近刊予定)などの論文を通して、理論的な洗練化を図っている。従来の福祉国家研究は、主に資本主義との関連、とくに資本主義の本質的な矛盾がもたらす失業・貧困問題や資本主義主義の成熟がもたらす少子高齢化問題への対応として、福祉国家の歴史過程を捉える傾向が強い。しかし、その視点からすると、韓国を含むアジア諸国・地域における「福祉国家の未発達」しか説明できない。それに対して、資本主義に発展をもたらした「フォーディズム」に着目することで、福祉国家の歴史過程についての新しい視点を確保することができ、それによって、アジア諸国・地域に関して、「福祉国家の未発達」ではなく、「非フォーディズム」的な資本主義の展開にみる「福祉国家の新しい途」を浮き彫りにすることができる。その新しい途は単にアジア諸国・地域に限らず、他の先進諸国に対しても、「ポスト・フォーディズム時代」における福祉国家の新しいあり方を示すものと考えられる。このような問題関心から、歴史・現状分析の課題(2)にも取り組み、「格差問題と福祉国家——アジアにみるポスト福祉国家の可能性」(『韓国朝鮮文化研究』, 18, 2019)と「韓国の社会保障にみるアジアの共通課題——21世紀の新しい途を探る」(『社会学評論』, 70(3), 2019)などの研究成果を発表している。

以上の理論研究と歴史・現状分析に関連して、国内および国際学会で、「アジアにみるポスト福祉国家の可能性と限界」(社会学系コンソーシアム・日本学術会議第11回シンポジウム「アジアがひらく日本」, 2019)と「人口動態と社会保障——日韓の経験とその政策的含意」(第11回東アジア社会福祉モデルシンポジウム, 2019)という研究発表を行い、大きな反響を呼んだ。なお、以上の研究はこれまで、2018年度から2020年度にかけての科学研究費補助金を受けて行っており(「後発福祉国家・韓国のベーシックインカムに政策的含意」(基盤研究(C):課題番号18K02123, 研究代表者)),それをより発展させるための現地調査を主な目的とした研究課題が科学研究費補助金の交付対象が新しく採択され(「インフォーマル化するアジア——グローバル化時代のメガ都市のダイナミクスとジレンマ」(基盤研究(A):課題番号19H00553, 研究分担者),「アジアにおけるデジタル化の国際比較——利活用水準、政策体系、電子認証制度に注目して」(基盤研究(C):課題番号20K12367, 研究分担者)),現在、アジア各国・地域の現地調査をより活発に進めている。

#### d 主要業績

##### (1) 著書

- 共著, 田多英範編, 『厚生(労働)白書を読む——社会問題の変遷をどう捉えたか』, ミネルヴァ書房, 2018.6
- 共著, 金成垣ほか著, 『중장기사회보장계획의 선진국 사례 및 시사점 [中長期社会保障計画の先進国事例とその示唆点]』, 서강대학교산학협력단 [西江大学校産学協力団], 2018.11
- 共著, 金成垣ほか著, 『생계급여제도 국제비교연구 [生計給付制度の国際比較研究]』, 한국보건사회연구원 [韓国保健社会研究院], 2018.12
- 共著, 김태완 [キム・テワン]ほか著, 『포용성장의 비전과 전략 [包容成長のビジョンと戦略]』 한국보건사회연구원 [韓国保健社会研究院], 2019.3
- 共著, 양재진 [ヤン・ジェジン]ほか著, 『사회보장재원구성에 관한 기초연구 [社会保障財源構成に関する基礎研究]』 보건복지부・복지국가연구센터 [保健福祉部・福祉国家研究センター], 2019.11

##### (2) 論文

- 単著, 金成垣, 「韓国における社会保障制度の行き詰まりと新たな試み」, 『東亜』, 2018.11月号, 84-93頁, 2018.11
- 単著, 金成垣, 「足踏みする韓国の社会保障制度」, 『週刊社会保障』, No.3014, 48-53頁, 2019.3
- 共著, 米澤旦・金成垣「韓国における外国からの移住者への支援組織の現状——ヒアリング調査をもとにして」, 『明治学院大学社会学部附属研究所年報』, 49, 219-230頁, 2019.3
- 単著, 金成垣, 「格差問題と福祉国家——アジアにみるポスト福祉国家の可能性」, 『韓国朝鮮文化研究』, 18, 43-59頁, 2019.3
- 共著, Powell, Martin, Ki-tae Kim & Sung-won Kim, “The puzzle of Japan’s welfare capitalism: a review of the welfare regimes approach”, *Journal of International and Comparative Social Policy*, 35, 92-110, 2019.7
- 単著, 金成垣, 「韓国の社会保障にみるアジアの共通課題——21世紀の新しい途を探る」, 『社会学評論』, 70 (3), 224-240頁, 2019.12

##### (3) コラム・エッセー

- 単著, 金成垣, 「福祉国家とフォーディズム」, 『生活経済政策』, No.264, 2019.1
- 単著, 金成垣, 「20世紀のアジアとその後」, 『生活経済政策』, No.268, 2019.5
- 単著, 金成垣, 「21世紀のアジアとその後」, 『生活経済政策』, No.272, 2019.9
- 単著, 金成垣, 「広がる『福祉国家的ではないもの』」, 『生活経済政策』, No.276, 2020.1

##### (4) 学会発表・講演

- 国内, 金成垣, 「アジアにみるポスト福祉国家の可能性と限界」, 社会学系コンソーシアム・日本学術会議第11回シンポジウム「アジアがひらく日本」, 日本学術会議講堂, 2019.1
- 国際, 金成垣, 「Aging in Japan and Korea」, シンポジウム「未来への対話——デジタルエイジングとアクティブエイジング」, タイ・バンコク, 2019.3.11
- 国際, 金成垣, 「人口動態と社会保障——日韓の経験とその政策的含意」, 第11回東アジア社会福祉モデルシンポジウム, 広東金融学院, 中国・広州, 2019.5.4
- 国内, 金成垣, 「東アジアの高齢化と福祉政策」第6回学習院大学ブランディング・シンポジウム(第25回生命科学シンポジウム), 学習院大学, 2019.6.29
- 国際, 金成垣, 「アジアの高齢化をどう捉えるか——『キャッチアップするアジア』から『学び合うアジア』へ」第10回東アジア市民社会フォーラム「長寿社会と市民社会組織——市民社会が主体的に実現する持続可能な福祉」JICA 地球ひろば国際会議場, 2019.10.28

### 3. 主な社会活動

#### (1) 他機関での講義等

(非常勤講師) 明治学院大学, 「社会政策」, 2018.4～2019.3

(非常勤講師) 明治学院大学, 「フィールドワーク」, 2018.4～2019.3

(非常勤講師) 明治学院大学, 「演習 1」, 2018.4～2020.3

(非常勤講師) 明治学院大学, 「演習 2」, 2018.4～

#### (2) 学会

(国際) 社会保障国際論壇, 事務局, 2010.9～

(国内) 社会政策学会, 日本・東アジア専門部会事務局, 2010.9～2020.5

(国内) 社会政策学会, 幹事, 2019.5～2020.5

(国内) 福祉社会学会, 庶務理事, 2020.6～

(国内) 社会福祉学会, 国際学術交流促進委員, 2018.6～

(国際) 韓国社会政策学会, 国際協力委員, 2012.6～

#### (3) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

(研究機関) アジア研究所, 機関誌『アジア経済』編集委員, 2020.4～